



里山に育む生きものたち

14 アメリカヒドリ

(カモ目 カモ科)

学名 *Anas americana*

英名 American Wigeon

写真・文 / 山口 萬壽美

▼鳥の分類がかわる

2012年9月、日本鳥学会から新しい鳥類目録(第7版)が出版され、日本の鳥の種類や分類が一部変わりました。しかし、分類が変わっても鳥そのものの見た目や行動は変わりません。今回の分類の特徴は、遺伝学的に鳥のDNAを比較して制作されたことにあります。

(例) ツグミ科→ヒタキ科、

ハタオリドリ科→スズメ科

▼アメリカヒドリの特徴

大きさや習性がヒドリガモとよく似た、きれいな鳥です。

頭部は淡い黄白色で、目の周囲から後頭にかけて、トレードマークの広い緑色の帯が見られることから、すぐに

見分けがつかず。頬には黒い小斑が散在しています。胸から脇、背の上面にかけてぶどう色、嘴は青白色で先端は黒色。下尾筒は黒く、鉛色の足。飛翔時、翼の上面の雨覆羽の白が目立ちます。翼鏡は緑色。雌は全身が赤褐色の地味な色彩。雨覆は灰褐色だが白っぽい。鳴き声は、雄はヒドリガモに似てピユウ、ピユウ。雌はクワツ、クワツ。

▼分布

北アメリカ北部で繁殖し、アメリカ中部やメキシコ、西インド諸島等で越冬。日本へは、毎年少数が冬鳥として飛来しています。記録としては、北海道から南西諸島まで全国各地に飛来しています。

本県のカモ類飛来数は、約30種が数

▼観察ノート

この鳥が、本県で最も親しまれ、その名を高めたのは古徳沼でした。この鳥は平成11年から15年までの間に4回飛来し、一緒に飛来したヒドリガモたちから離れて、一羽だけで行動していました。彼が見られた主な居場所は、餌を捕りやすい岸辺近くだったので、多くの鳥見のツアーは、「アメリカから来たきれいな鳥」として、この鳥の撮影を楽しんでいました。

▼カモ類の雑種

カモ類の鳥は、自然環境下で、よく異種間の交雑がおこり、雑種に出合うことがあります。子どもは雄に似ていることが多いようです。

(例) マガモ(雄) × カルガモ

オナガガモ × トモエガモ(雄)

ヒドリガモ × アメリカヒドリ(雄)

マガモ × オナガガモ(雄)

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤 1080 TEL029-292-1111

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成25年5月1日現在)
◆総人口 34,415人(+202) 男 17,225人(+168) 女 17,190人(+34) ◆世帯 12,600戸(+241)

DATA

再生紙を使用しています



※環境に優しい大豆インクを使用しています